

二十七日、はやしのおほきみ林王の宅にして、たがまのあんせつし但馬按察使

たちばなのならまらあそみ橘奈良麻呂朝臣に饑する宴の歌三首

四二七九番

能登川ののとは後には逢はむのちしましくもあ別るといわか
へばかな悲しくもあるか

四二八〇番

立ち別れたわか君がいまさばきみ磯城島のしきしま人は我じくひとわれ
齋いはひて待たむま

四二八一番

白雪のしらゆき降り敷く山をふし越え行かむこゆ君をそもときみ
ないき息の緒をに思ふおも